

## \* 子ども防災博士意見発表の部 \*

### 最優秀賞 「常に心がまえを」

上岩出小学校 谷口 珠伶さん



「地震なんて他人事・・・」授業で勉強しても、ニュースで地震の話聞いても、いつも心のどこかにこの言葉が浮かんでいました

しかし、そんな私を大きく変える出来事が起りました。

「大阪北部地震」みなさんは、この地震を覚えていらっしゃるでしょうか。去年の六月十八日に大阪府北部を震源とした震度6の大きな地震です。近畿地方を中心に大きな被害をもたらしました。

私は、いつも通り学校に登校して友だちと楽しく話をしていました。

すると、「グラグラ」急な大きな揺れが・・・。

私は、近くで遊んでいる男子がかべにぶつかって揺れたのかなと思いました。が、その瞬間、

「地震だ」というさけび声。

周りの人が次々に机にもぐる姿を見て、あわてて机の下にかくれました。

ゆれがおさまり、気持ち落ち着いてきたと同時に地震へのこわさがおしよせてきました。他人事だった地震が、わたしに起こったのです。この時、初めて私の中で地震への本当のところがまえができました。

これを機会に私は地震について考えることが増えました。

まずやってみたことは、いろいろな人に地震への備えについて聞くことでした。

お母さんには、

「災害が起きたときのために家で備えていることあるの。」と聞くと、

懐中電灯や非常食、水やろうそくなど、たくさん準備をしてくれていることを教えてくれました。

次に、祖母は、近所の人と、避難場所を決めて小学校に支えん物資をもらいに行こうと決めているという話をしてくれました。

最後に、東京の小学校で働いている伯母に電話で話を聞くことにしました。すると、東日本大震災の時の話をしてくれました。

当時、一番大変だったのは、大きな地震による混乱もあり、夜遅くまで保護者の方に児童を引き渡すことができなかつたことだったそうです。そんな状況を知った地域の方が、子ども達のためにと、おにぎりをはぎって持ってきてくれたそうです。伯母は、思いがけない地域の方の優しさに感謝したと語ってくれました。

みんなから話を聞かせてもらって私は、共助という言葉が頭に浮かびました。いざというとき地域の人とつながり支え合うことが大切だと気づかされました。でも、私はどうしたら地域とつながれるのでしょうか。

みなさんならどうされますか。

私が考えたのは、あいさつです。

笑顔で元気よくあいさつすることで近所の方々とつながっていきたいと思います。また近所にいろいろなことを教えてくれるおじさんもいるのでその方にも礼儀正しくしていきたいです。

また、私の身近な地域の方と防災訓練をしてみたいです。なぜそう考えたかという、以前に岩出市の防災訓練に参加したことがあります。そこで、防災に関するたくさんのことを学んだ経験があるからです。私の地域でも、いざというときに向けて、声をかけ合えたり、助け合えたりするような備えができれば心強いと思ったからです。

みなさんもいざというときの地震のために常に心がまえをして、地域の方々のつながりを大切にしていきたいませんか。私はがんばります。

まずは、「おはようございます」「こんにちは」と声をかけてみませんか。その一言で地域の輪が広がり守られる命があることを信じて。